

令和2年度 学校自己評価システムシート (県立久喜高等学校 定時制)

e03

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

目指す学校像	個に目を向け、基礎学力の充実を図り、生徒全員の進級・卒業・進路希望を実現できる学校
重点目標	1 生徒の授業参画意識を高め、一人一人に応じた学びを支援し、基礎学力の向上を図る。 2 健やかな心身の育成を図り、将来の生き方を考えさせ、希望進路の実現を図る。 3 学校情報を積極的に発信し、地域の期待と信頼に応え、地域とともに歩む学校を推進する。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	学校関係者	3名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	5名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価			
年 度 目 標					年 度 評 価 (1月20日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施 令和3年2月22日
								学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 落ち着いた環境の中で授業が行うことができ、生徒の授業態度も良好である。しかし、学習の振り返りが必要な生徒や学習習慣が身につけていない生徒、不登校傾向の生徒、日本語が母国語でないため日本語の理解力が不足している生徒等がいる。 【課題】 個々の生徒が抱える課題の解決に向けて、効果的・継続的な支援を、全教職員の共通理解の下で行う必要がある。	○学習習慣等の確立を目指した生徒支援体制の充実 ○個々の生徒の課題を把握して個に応じた課題解決のための取組を推進	①生徒の学習習慣の確立や、基礎学力の向上を目指した指導法を検討し実践する。 ②主体的、対話的な深い学びを引き出す授業の取組や、観点別評価など評価方法について検討する。 ①教育局の各事業を通して、全教員の共通理解の下、質の高い支援を行う。また専門的な意見を受ける機会を定期的に設ける。 ②スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの専門性を生かし、相談窓口の充実を図る。	①成績優良者数増加や成績不振者数減少が実現できたか(昨年度、成績優良者20%、欠点保有者0%)。 ②生徒アンケートで、授業改善への効果が表れたとの回答の割合が多かったか。 ①個々の生徒の課題解決を教員共通理解の下で、組織的・継続的に支援できたか。また中途退学者数が昨年度より減少したか(昨年度4名)。 ②生徒アンケートで、相談・支援等の体制が整っていると回答した割合が多かったか。	各教員が個に応じた授業を実施、展開することが出来た。新学習指導要領へ向けた取り組みを進めている。 ①2学期の成績優良者は24%、欠点保有者は3人となった。 ②アンケート結果から97%が授業改善に積極的であるとの回答を得られた。 個に応じた課題解決に対して、各事業の効果が現れ始めている。 ①組織的・継続的な支援体制ができた。2学期までの退学者数は0名である。 ②アンケート結果から、87.9%が相談体制は整っているとの回答が得られた。	B	個に応じた授業展開は概ねできているが、組織的な取り組みまでには至っていない。特に主体的、対話的な深い学びを引き出す授業の取組や、観点別評価など評価方法についての検討は引き続き行っていく。 退学者が減少した。各事業を有効的に活用し継続したい。 いじめによる差別を見逃すことなくお互いの人権を尊重することが出来るとの回答は生徒アンケートで93.9%であった。相談窓口などの支援体制の充実引き続き行う。	・心機一転頑張っている生徒や苦勞をしている生徒たちに基礎学力の定着、向上を目指している。引き続き学習指導について研究してほしい。 ・授業改善に積極的な取り組みや、個に応じた授業の取組が現れています。 ・これからも生徒に寄り添った指導をお願いします。 ・何でも相談しやすい環境づくりが出来ている。 ・生徒自身も問題を解決して乗り越えて行く力を身につけてほしい。 ・学習面、生活面等で悩みを抱えたり、家庭の状況により相談が必要なケースがある。それらのケースに対応した支援体制が整っています。 ・先生方の、効果的、継続的な支援の質の高さが顕著に表れています。
2	【現状】 生徒の問題行動は少なく落ち着いた環境にある。また、計画に基づいた進路指導も成果が出ている。 【課題】 毎年、多様な生徒が入学しており、教員間で共通理解に基づいた組織的な生徒指導が必要である。交通事故ゼロに向けた取組の継続も必要である。 卒業時の進路未決定者ゼロ、特に就職希望者は正社員での決定を目指した指導が今後も必要である。	○共通理解に基づく組織的・継続的な生徒指導の推進と生徒支援体制の充実 ○生徒の進路希望を踏まえ、第1希望を実現する組織的・計画的な進路指導の取組の推進	①基本的な生活習慣が育つよう、学校行事、授業を通して指導する。 ②交通安全の意識を高めるよう、生徒指導関連の行事を効果的に行う。 ①進路行事を見直し、効果的な進路指導を行う。 ②進路意識を高揚させるため「高校生自立支援事業」等を活用し、進路に関する講演会、就労体験等を行う。	①生徒アンケートにおいて、基本的な生活習慣や社会のルール・マナーを守る態度を育てることに努めていると回答した割合が多かったか。 ②交通事故発生件数ゼロが実現できたか。 ①卒業時の進路希望を実現できたか。 ②「高校生自立支援事業」を効果的に活用し、生徒アンケートで「進路についての考えるようになった」が増加したか(昨年度79%)。	コロナ禍の中、行事が思うように実施できなかったが、授業を通しての育成はできた。 ①アンケート結果より、91.9%が基本的な生活習慣や社会のルール・マナーを守る態度を育てていると回答した。 ②交通事故発生件数は0件である。 行動が制限される中、進路については一定の成果が出せた。 ①2学期までに4年生全員の進路が決定した。 ②アンケート結果より、75.7%が進路について考えるようになった。昨年度より、やや減少した。	A	学校は交通安全や盗難防止など安全に関する指導に取り組んでいるとのアンケート回答は97%であった。安心、安全な学校生活を送れるよう指導を継続する。 臨時休校などで、進路指導が思うように進まなかったが、全員が進路実現を成しえた。新型コロナウイルス感染症予防対策の為、就労体験などは行えなかったが、次年度は行えるよう調整していきたい。	・ルールやマナーを守ることで交通面などのトラブルを回避できる。今後も守ってほしい。 ・様々な課題を抱える生徒に対して、基本的な生活習慣や社会生活を営む上で必要なルールや、マナー、道徳性を育成する指導は大切です。 ・今後も交通安全などに取り組み、安心安全な環境を目指してほしい。 ・コロナ禍の中、早い段階で4年生の進路が決定したことは指導の賜物であると思います。 ・進路指導、就労支援に計画的に取り組まれています。中学校にも情報をいただくと中学3年生への指導に参考になります。 ・今後も、就労体験などの機会があれば、ご協力させていただきます。
3	【現状】 学校情報を様々な場面を通じて発信している。 【課題】 定時制教育への理解と、社会に開かれた教育課程へ向けた取り組みが必要である。	○工夫・改善した積極的な学校情報の発信	①学校説明会、夕方の説明会、保護者向けの公開授業を実施し、定時制について理解を深めてもらう。 ②学校新聞の発行とホームページを適宜更新し、定時制教育への理解を広める。	①参加者の満足度、参加人数が増加したか(昨年度 学校説明会10組、夕方の説明会9組、公開授業0人)。 ②生徒アンケートで「家庭への情報提供を積極的に行っている」が増加したか(昨年度81%)。	H・Pの更新や学校新聞は学校再開と同時に出来た。限られた中、情報発信は行えた。 ①2学期までの学校説明会参加者は5組、夕方の説明会は1組となり減少した。 ②「家庭への情報提供を積極的に行っている」は、生徒アンケートで81.8%、保護者アンケートでは90.7%とほぼ横ばいであった。	B	学校情報の発信は継続する。今年度はコロナ禍の為、内容については昨年度と大きく変更しなかった。次年度については、内容を検討し、今年度よりも生徒の声を掲載できるようにしていく。	・ホームページなどで定時制しかないような所を発信してほしいと思います。生徒の声を載せることで、より興味をわいてくるのではないのでしょうか。 ・家庭、地域との連携、中高連携のため、引き続き学校の取組や生徒の活動の情報発信をお願いします。 ・説明会の人数は減少傾向で残念です。ホームページや学校新聞などで地域社会に理解されていると思います。